



屋内用

ブースター

VU・BC BOOSTER

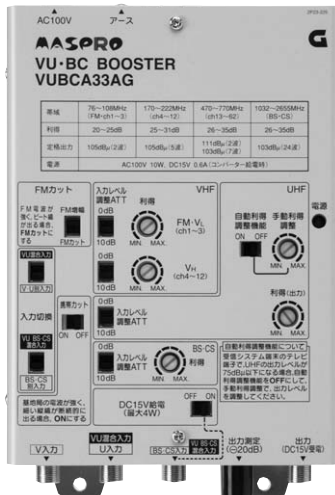
伝送周波数帯域
76～108MHz, 170～222MHz
470～770MHz, 1032～2655MHz

VUBCA33AG

UHF・BC BOOSTER

伝送周波数帯域
470～770MHz, 1032～2655MHz
VHF(76～222MHz) ミキサー内蔵

UBCA33AG



取扱説明書

2655MHz 対応

110°CSデジタル放送対応

DIGITAL

デジタル放送対応

このマークは各種のデジタル放送を、より高画質で見えるために、妨害電波の影響を受けにくい、高いシールド性能を備えた機器にマスプロ電工が表示している、信頼のマークです。

スカパーフェクトTV!には使用できません。

AC100VまたはDC15V方式

DC15V方式で使用するときの電源部：WP7(別売)

UHF 自動利得調整 オートブースター

地上デジタル放送の送信出力レベルが上がったときに、利得調整がいらぬ高性能ブースターです。

MASPRO of PROduction 生産の顧客

優れた性能と機能

UHF自動利得調整機能付 (特許出願中)

マスプロ独自のUHF自動利得調整回路により、地上デジタル放送移行期で、送信出力レベルが段階的に上がったときでも、ブースターの利得再調整が不要です。

自動↔手動 利得調整切換え

UHF自動利得調整機能をOFFにすることによって、手動利得調整に切換えられますから、自動利得調整機能の無いブースターとして、従来のシステムにも使用できます。

余裕のある高出力

UHFは、アナログ7波+デジタル9波で103dBμの高い出力レベルが得られますから、伝送波数の多い地域で使用しても、障害のないきれいな画像を受信できます。また、地上デジタル放送移行期のUHF多チャンネル受信にも対応できます。

携帯カットスイッチ (特許出願中)

携帯カットスイッチによって、携帯電話で使用する帯域をカットできますから、携帯電話の基地局が近くにある地域でも障害のないきれいな画像を受信できます。

2655MHz対応 (特許出願中)

マスプロ独自の高周波増幅・フィルター技術によって、BS・CS帯域が、1032～2655MHzと超広帯域ですから、110°CS左旋の通信サービス(予定)やモバイル放送に対応できます。

V, U, BS・CS 混合・別入力に対応

入力切換えスイッチによって、VHF, UHF, BS・CSを混合入力と別入力に切換えることができます。

JEITAデジタルハイビジョン受信マークは、(社)電子情報技術産業協会に登録された一定以上の性能を有する受信システム機器に付けられるシンボルマークで、衛星放送および地上デジタルテレビジョン受信用アンテナや機器の性能を証明するものです。



各部の名称と機能

ご注意

- 利得調整を操作するときは、調整用ドライバーを使用してください。無理に回すとこわれることがあります。
- スイッチは軽く操作してください。力を入れすぎるとこわれることがあります。

ACコード (約0.9m)

ACコードについて

- ACコードを延長するために、途中で切断して別のコードをつなぐことは、電気設備技術基準で禁じられています。
- DC15V方式で使用するときには、ACコードに電圧はかかりません。邪魔になる場合、ACコードを根元から切断してください。

入力レベル調整ATT (10dB)

- 各帯域の入力レベルが高い場合、「10dB」にします。
- 出荷時は
FM・VL (ch1~3) : 「10dB」
VH (ch4~12) : 「10dB」
UHF (ch13~62) : 「10dB」
BS・CS : 「10dB」
になっています。
(UBCA33AGには、FM・VL、VH) はありません。

FMカットスイッチ

- (UBCA33AGにはありません)
- FMの電波が強く、テレビのch1~3に妨害が出るとき、「FMカット」にします。
- 出荷時は「FM増幅」になっています。

入力切換スイッチ

- VHF、UHF、BS・CSの入力を混合入力と別入りに切換えます。
- 出荷時は「V・U別入力」。
- p.3「入力切換スイッチの操作方法」をご覧ください。

携帯カットスイッチ

- 携帯電話の基地局が近く、妨害が出る場合、「ON」にします。
- 出荷時は「OFF」になっています。

DC15V給電スイッチ (最大4W)

- BS・CSコンバーターに電源(DC15V)を供給する場合、「ON」にしてください。
- 出荷時は「OFF」になっています。

利得調整 (FM・VL、VH、BS・CS)

- 出力レベルを
FM・VL (ch1~3) : 0~ \ominus 10dB
VH (ch4~12) : 0~ \ominus 10dB
BS・CS : 0~ \ominus 10dB
の範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MIN.」になっています。
(UBCA33AGには、FM・VL、VH) はありません。

自動利得調整機能 (UHF)

- 定格出力レベルを超えないようにUHFの入力レベルを自動調整します。
- 出荷時は「ON」になっています。

手動利得調整 (UHF)

- 自動利得調整機能が「OFF」の場合、UHFの入力レベルを0~ \ominus 10dBの範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MIN.」になっています。

利得(出力)調整 (UHF)

- 受信システム端末のテレビ端子で、UHFの出力レベルが高い場合、使用します。
- 出力レベルを0~ \ominus 10dBの範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MAX.」になっています。

出力測定端子 (\ominus 20dB)

V入力端子

- V・U別入力のときのFM・VHFの入力端子です。
- 使用しないときは、付属のキャップを取付けてください。

VU混合入力端子 U入力端子

- V・U別入力のときのUHFの入力端子です。
- VU混合入力のときのFM・VHF、UHFの入力端子です。
- 使用しないときは、付属のキャップを取付けてください。

VU BS・CS混合入力端子 BS・CS入力端子

- BS・CS別入力のときのBS・CSの入力端子です。
- VU BS・CS混合入力のときのFM・VHF、UHF、BS・CSの入力端子です。
- 使用しないときは、付属のキャップを取付けてください。

出力端子

(DC15V受電端子)

F型コネクター

- 締付トルク
2N・m
(21kgf・cm)

入力レベルの設定について

使用する前に、必ず入力レベルを確認して、実用入力レベルの範囲内になるように設定してください。実用入力レベルを超えた状態で作動させておくと故障の原因となります。実用入力レベルの範囲内になるように設定してから、本器に電源を供給してください。

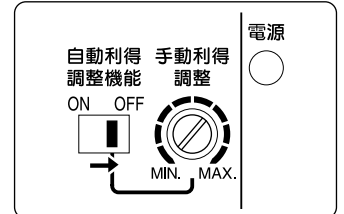
入力レベルの確認方法

アンテナまたはミキサーからのケーブルをレベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザーに接続して、入力レベルを確認してください。

- 入力レベルが、p.6「規格表」の実用入力レベルの範囲内になっているか確認してください。
- 実用入力レベルを超えているときは、別売のアッテネーター **ATT1.5, 3, 6, 10, 15, 20** を使用して、実用入力レベルの範囲内になるようにしてください。

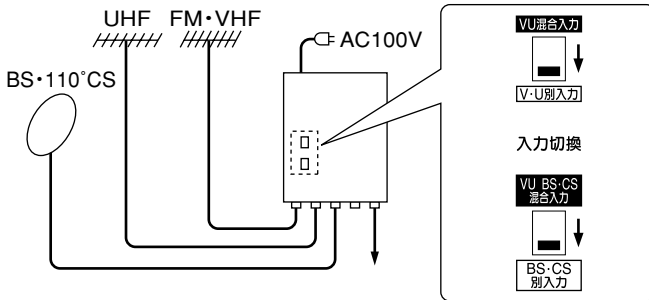
自動利得調整機能について

受信システム端末のテレビ端子で、UHFの出力レベルが75dB μ 以下になる場合、自動利得調整機能を「OFF」にして、手動利得調整で、出力レベルを調整してください。
 (出力レベルが75dB μ 以下の場合、自動利得調整機能を「ON」のまま使用すると、地上デジタル放送の送信出力レベルが上がったときに、自動利得調整機能が作動して、UHFアナログ放送の画像にスノーノイズが出る場合があります。)

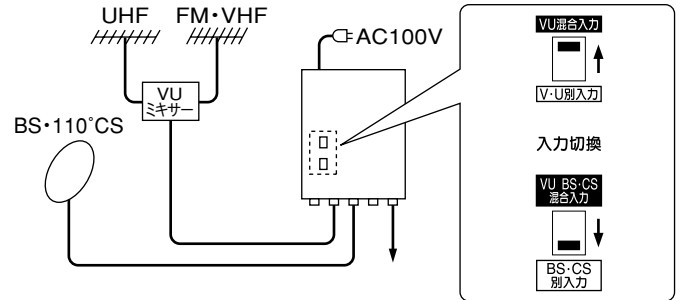


入力切換スイッチの操作方法

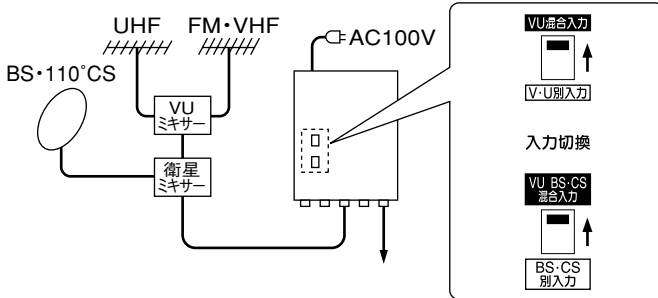
FM・VHF, UHF, BS・CS別入力の場合



FM・VHF・UHF混合, BS・CS別入力の場合

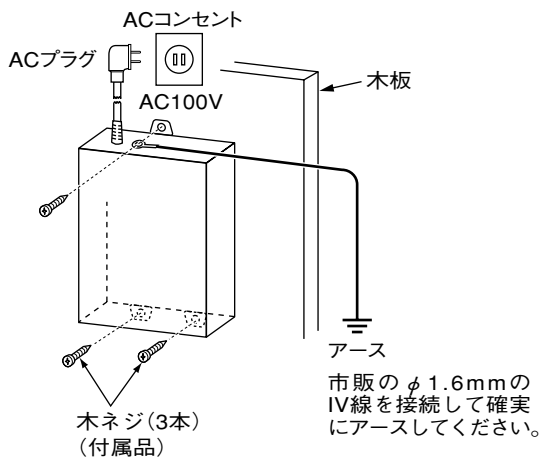


FM・VHF・UHF・BS・CS混合入力の場合



取付方法

本器は屋内用です。雨水のかかる場所では、防水型の機器収納箱に設置してください。



機器収納箱についてのご注意

- 機器収納箱は、400(H)×400(W)×120(D)mm以上の大きさで、換気孔のあるものを使用してください。
- 機器収納箱は確実にアースしてください。
- 本器は、できるかぎり機器収納箱の低い位置に取付けてください。
- AC100V方式で使用する場合、機器収納箱にACコンセントを用意してください。
- 機器収納箱には、本器以外に発熱する機器を設置しないでください。

ご注意

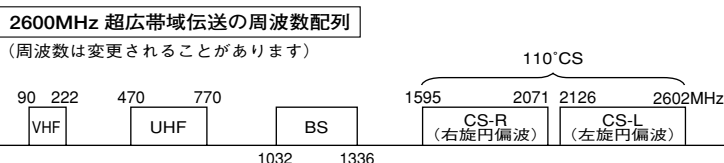
- ACプラグは、共同受信の配線工事がすべて終了してから、ACコンセントに接続してください。
- ブースターは、内部温度上昇を防ぐため、グラスウールのような断熱材の上に置いたり、包んだりしないでください。
- 腐食性ガス(塩素, 硫化水素, 亜硫酸ガス, 窒素酸化物, 塩基性ガスなど)が発生する環境で使用しないでください。

2600MHz 超広帯域伝送

2600MHz対応の製品と組合わせて先行配線しておけば、110°CS左旋の通信サービス(予定)まで、共同受信システムの機器を変更せずに受信できます。

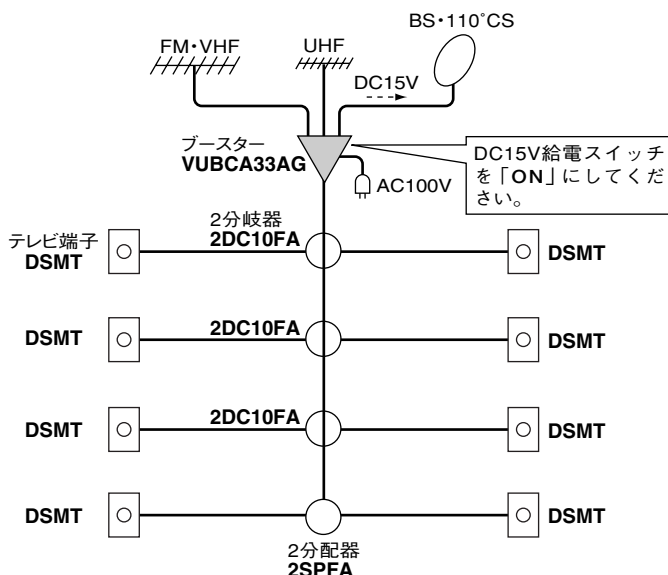
2600MHz 超広帯域伝送とは

VHF・UHFとBSに加え、110°CSの右旋円偏波と左旋円偏波の信号が、1本のケーブルで伝送できる方式です。110°CSは、BSより高い周波数を使用します。放送サービスは右旋円偏波で、通信サービスが左旋円偏波で行われる予定です。すべてのテレビ端子に右旋・左旋の信号を伝送するためには、2600MHzまでの周波数に対応する機器が必要です。



使用例

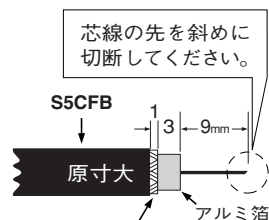
- 分岐器・分配器・テレビ端子は、すべてBS・CS帯域で性能が保証されたものを使用してください。
- 配線用ケーブルは、BS・CS用低損失75Ωケーブル(**S5CFB**または**S5CHFB**)を使用してください。



F型コネクター (5Cケーブル用) の取付方法

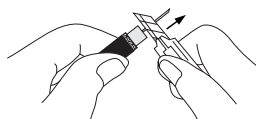
接触不良やショートを防ぐため、プラグはていねいに取付けてください。

① ケーブルの加工



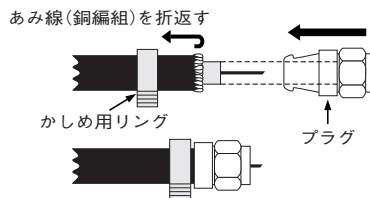
あみ線(銅編組)をニッパー(またはハサミ)で、1mm残して切ってください

② 芯線には白い膜が付いています。導通を良くするために、必ず取除いてください。



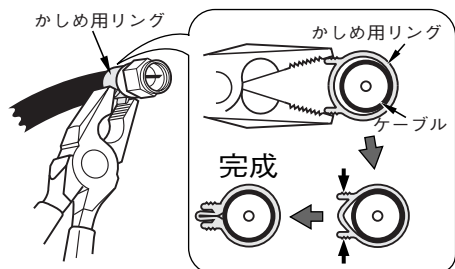
③ プラグの取付け

1. かしめ用リングを、ケーブルに通してください。
2. あみ線(銅編組)を折返してください。
3. プラグを強く押込んでください。

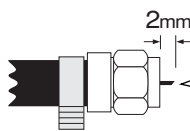


④ かしめ用リングをペンチで圧着

プラグが抜けないようにプラグの根元で、しっかりと圧着してください。



完成図



芯線が長すぎると、コネクターが破損して機器が故障します。

芯線の長さは、必ず2mmにしてください。

芯線は、まっすぐにしてください。

芯線が曲がっていると、ショートして、機器が故障します。



正しく使用していただくために

画像が出ない場合、または、よい画像が得られないときは、次のチェックをしてください。

画像が出ない場合

- ① 電源
規定の電源 (AC100VまたはDC15V) が正しく供給されていますか。
●電源電圧を確認してください。
- ② DC15V給電スイッチ (BS・CS受信)
正しく操作してありますか。
- ③ 入力切換スイッチ
正しく操作してありますか。
●p.3「入力切換スイッチの操作方法」を確認してください。
- ④ 入・出力端子とケーブルの接続
本器に接続する入・出力ケーブルは、それぞれの端子に正しく接続してありますか。
●各端子とケーブルの接続を確認してください。

画像にスノーノイズ (VHF・UHFアナログ受信時) またはモザイク状のノイズ (地上デジタル受信時) が出る場合

- VHF入力レベルが低い場合、FM・VLまたはVHの入力レベル調整ATTを「0dB」にし、FM・VLまたはVHの利得調整を(右)にゆっくり回してください。
- UHFの入力レベルが低く、自動利得調整機能が「ON」の場合、UHFの入力レベル調整ATTを「0dB」にしてください。
- UHFの入力レベルが低く、自動利得調整機能が「OFF」の場合、UHFの入力レベル調整ATTを「0dB」にし、手動利得調整を(右)にゆっくり回してください。

画像にビート縞、ワイパー現象、粒状のノイズ (VHF・UHFアナログ受信時) またはモザイク状のノイズ (地上デジタル受信時) が出る場合

- VHFの入力レベルが高い場合、FM・VLまたはVHの入力レベル調整ATTを「10dB」にし、FM・VLまたはVHの利得調整が「MIN.」でないときは、利得調整を(左)にゆっくり回してください。
- UHFの入力レベルが高く、自動利得調整機能が「ON」の場合、UHFの入力レベル調整ATTを「10dB」にしてください。
- UHFの入力レベルが高く、自動利得調整機能が「OFF」の場合、UHFの入力レベル調整ATTを「10dB」にし、手動利得調整が「MIN.」でないときは、手動利得調整を(左)にゆっくり回してください。

画像にスパークリーノイズ (BSアナログ受信時) またはモザイク状のノイズ (BS・110°CSデジタル受信時) が出る場合

- ① アンテナの向き
アンテナの方向がずれています。
●画像を見ながら、ノイズが最も少なくなるように、BS・110°CSアンテナの方向を再調整してください。
- ② レーダーによる妨害
レーダーのある基地や空港の近くで受信すると、周期的に画像に妨害を受けることがあります。
●BS・110°CSアンテナやブースターをレーダーの電波ビームから外れる低い位置か、建物の陰など、妨害の影響を受けない場所に移動してください。
- ③ 入力レベル調整ATT・利得調整
●BS・CSの入力レベルが低い場合、BS・CSの入力レベル調整ATTを「0dB」にし、BS・CSの利得調整を(右)にゆっくり回してください。
●BS・CSの入力レベルが高い場合、BS・CSの入力レベル調整ATTを「10dB」にし、BS・CSの利得調整が「MIN.」でないときは、利得調整を(左)にゆっくり回してください。

以上の方法でもトラブルが解決できない場合、お近くの当社支店・営業所または本社技術相談までお問い合わせください。

規格表

項目	VUBCA33AG				UBCA33AG		
	76~108MHz (FM・ch1~3)	170~222MHz (ch4~12)	470~770MHz (ch13~62)	1032~2655MHz (BS・CS)	76~222MHz (FM・ch1~12)	470~770MHz (ch13~62)	1032~2655MHz (BS・CS)
伝送周波数帯域	76~108MHz (FM・ch1~3)	170~222MHz (ch4~12)	470~770MHz (ch13~62)	1032~2655MHz (BS・CS)	76~222MHz (FM・ch1~12)	470~770MHz (ch13~62)	1032~2655MHz (BS・CS)
利得	20~25dB	25~31dB	26~35dB	26~35dB	—	26~35dB	26~35dB
通過帯域損失	—				0~2dB	—	
利得偏差 (P/V)	3dB以内	3dB以内	5dB以内	6dB以内	—	5dB以内	6dB以内
入力レベル調整ATT	10dB	10dB	10dB	10dB		10dB	10dB
利得調整範囲	0~⊖10dB以上 (連続可変)	0~⊖10dB以上 (連続可変)	—	0~⊖10dB以上 (連続可変)		—	0~⊖10dB以上 (連続可変)
手動利得調整	—		0~⊖10dB以上 (連続可変)※1	—		0~⊖10dB以上 (連続可変)※1	—
利得(出力)調整	—		0~⊖10dB以上 (連続可変)	—		0~⊖10dB以上 (連続可変)	—
実用入力レベル	44~80dBμ (100dBμ ※2)	44~74dBμ (94dBμ ※2)	45~76dBμ (96dBμ ※3) ※4	45~68dBμ (88dBμ ※2)		45~76dBμ (96dBμ ※3) ※4	45~68dBμ (88dBμ ※2)
定格出力レベル	105dBμ (2波)	105dBμ (5波)	111dBμ ※4 103dBμ ※5	103dBμ (24波)		111dBμ ※4 103dBμ ※5	103dBμ (24波)
混変調/相互変調	⊖46dB以下/⊖53dB以下		⊖46dB以下/⊖68dB以下	— /⊖55dB以下※6		⊖46dB以下/⊖68dB以下	— /⊖55dB以下※6
雑音指数	5dB以下		6dB以下	6dB以下 (1032~2150MHz) 8dB以下 (2150~2655MHz)		6dB以下	6dB以下 (1032~2150MHz) 8dB以下 (2150~2655MHz)
VSWR	3以下			2.5以下		3以下	
入・出力インピーダンス	75Ω (F型コネクタ)						
耐雷性	15kV (1.2/50μs) のサージ電圧に耐えること						
電源	AC100V または DC15V方式						
BS・CSコンバーター用電源	DC15V 最大4W						
消費電力	10W (AC100V方式), 0.6A (DC15V方式) (BS・CSコンバーター給電時)				9W (AC100V方式), 0.5A (DC15V方式) (BS・CSコンバーター給電時)		
使用温度範囲	⊖10~⊕40℃						
外觀寸法	205 (H) × 131 (W) × 47 (D) mm						
質量 (重量)	約 800 g						
シンボル							

※1: 自動利得調整機能「OFF」のときの値です。
 ※2: 利得調整を「MIN.」(利得調整を(左)へいっぱいに戻した状態)にし、入力レベル調整ATTを「10dB」にしたときの最大の実用入力レベルです。
 ※3: 自動利得調整機能「ON」で、入力レベル調整ATTを「10dB」にしたとき、または、自動利得調整機能「OFF」で、入力レベル調整ATTを「10dB」にし、手動利得調整を「MIN.」(手動利得を(左)へいっぱいに戻した状態)にしたときの最大の実用入力レベルです。
 ※4: アナログ2波の値です。
 ※5: アナログ7波+デジタル9波の値です。(デジタル波の信号レベルが、アナログ波より10dB低い場合)
 ※6: 2信号3次ひずみの値です。

マスプロの規格表に絶対うそはありません。
 ご理解と信頼あるデータにご期待ください。

付属品

- 木ネジ 3本
- F型コネクタ(5Cケーブル用)..... 4個
- キャップ 2個

製品向上のため 仕様・外觀は変更することがあります。

マルチメディアの
マスプロ電工

本社 〒470-0194 (本社専用番号) 愛知県日進市浅田町
 営業部 TEL名古屋 (052) 802-2244
 技術相談 (052) 805-3366
 受付時間 (土日祝日、当社休業日を除く)
 9~12時, 13~17時
 インターネットホームページ www.maspro.co.jp

支店・営業所
 沖繩 (098) 854-2768 熊本 (096) 381-7626
 鹿児島 (099) 812-1200 長崎 (095) 864-6001
 宮崎 (0985) 25-3877 福岡(支) (092) 531-3861
 北九州 (093) 941-4026

- 下関 (0832) 55-1130
- 広島 (082) 230-2351
- 松江 (0852) 21-5341
- 岡山 (086) 252-5800
- 松山 (089) 973-5656
- 高知 (088) 882-0991
- 高松 (087) 865-3666
- 姫路 (0792) 34-6669
- 神戸 (078) 843-3200
- 大阪(支) (06) 6635-2222
工事営業部 (06) 6632-1144
- 京都 (075) 646-3800
- 津 (059) 234-0261
- 岐阜 (058) 275-0805
- 名古屋(支) (052) 802-2233
工事営業部 (052) 804-6262
- 豊橋 (0532) 33-1500
- 静岡 (054) 283-2220
- 松本 (0263) 57-4625
- 福井 (0776) 23-8153
- 金沢 (076) 249-5301
- 新潟 (025) 287-3155
- 横浜 (045) 784-1422
- 渋谷(支) (03) 3409-5505
工事営業部 (03) 3499-5631
- 青戸 (03) 3695-1811
- 八王子 (0426) 37-1699
- 千葉 (043) 232-5335
- さいたま (048) 663-8000
- 前橋 (027) 263-3767
- 水戸 (029) 248-3870
- 宇都宮 (028) 660-5008
- 郡山 (024) 952-0095
- 仙台 (022) 786-5060
- 盛岡 (019) 641-1500
- 秋田 (018) 862-7523
- 青森 (017) 742-4227
- 函館 (0138) 53-7355
- 札幌 (011) 782-0711
- 釧路 (0154) 23-8466
- 旭川 (0166) 25-3111
- 北見 (0157) 36-6606

Master of Production 生産の覇者